

花川病院

症例概要 患者：50歳代 男性

病名：バージャー病・2型糖尿病

入院期間：2025年 A月～B月

回復期リハビリテーション病棟において、左下腿切断後に義足作成を目的として入院した患者さん。入院当初、ご本人は再び歩行することを希望する一方で、経済的不安や将来の就労に対する不透明感を抱えていた。ご家族も医療費負担や生活の維持に強い不安を感じていた。そこで多職種で生活再建をゴールとした支援目標を共有し、身体機能訓練と並行して、制度活用や就労に関する支援を早期から開始した。

内 容

■病前の生活

ご本人は排水管清掃や修理、大型作業車の運転など身体負荷の高い業務に従事していた。妻と2人暮らしで市営住宅に居住しており、収入は本人の就労が主だった。

■入院時の状態

左下腿切断後、疼痛や不眠が改善する一方、義足作成に対する期待と同時に、退院後の生活や収入への不安を抱えていた。経済的には義足作成や入院費負担が大きく、将来の見通しが立たない状況であった。

■多職種介入

Dr・NS・CW・PT・OT・管理栄養士と連携し、義足歩行訓練および日常生活動作訓練を実施。チームで生活再建を共通目標とし、ご本人・ご家族と将来像を共有した。

Dr：治療方針決定、全身管理、切断後合併症・糖尿病管理

NS：断端・創管理、セルフケア指導、家族支援

CW：心理的サポート 日常生活のケア



PT：義足歩行訓練、基本動作訓練、身体機能評価

OT：ADL、IADL訓練、生活復職を見据えた支援

管理栄養士：糖尿病管理、創傷治癒を意識した栄養指導

MSW：医療費・生活費調整

傷病手当金や障害年金制度活用、就労・転職支援

■成果

義足使用により屋内外歩行が安定し、退院後の生活動線が具体化した。経済面の見通しを共有したことでご家族の不安が軽減し、ご本人は復職・転職を含めた選択肢を主体的に検討できるようになった。その後、転職活動を経て、当院地域連携支援センターへの就職が決定した。